



2025年に入りあっという間に1か月が過ぎ2月に入りました。暦の上での春夏秋冬の始まりをそれぞれ、「立春」「立夏」「立秋」「立冬」と呼んでいます。そしてそれらの前日にあたる、節を分ける日が「節分」です。現在では「節分」といえば、立春の前日を指すことがほとんどです。まだまだ風は冷たいけれど、春はもうすぐそこまできています。3年生のみなさんは風邪に気をつけて、体調管理をしっかりと自分の持っている力をじゅうぶんに出しきれるように、心から願っています。桜咲く春が待ち遠しいですね！

## ねこの日(2月22日)にいかが？

### カメに飛ぶことを教えた猫

ルイス・セプルベダ著 963セ

世界から猫が消えたなら 川村元気 913カ

吾輩は猫である 夏目漱石 913ナ

猫とわたしの七日間 秋山浩司ほか 913ネ

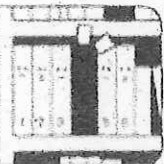
猫の帰還 ロハート・ウェストール 933ウ

100万分の1回のねこ 江國香織ほか 913ヒ

ジェニィ ポール・ギャリコ 933ギ



遺し忘れていた  
本が家に  
ありますか？



卒業・進級をひかえ  
返却忘れのないよう  
お願いします！！

2月生まれです！



ヴィクトル・ユーゴー

1802-1885

フランスの文豪といえばヴィクトル・ユーゴーです。その名を知らない人も「レ・ミゼラブル」の作者だといえば、わかるのではないのでしょうか。ユーゴーは、17歳にして国家主催の詩のコンクールで優勝するなど、早くから才能を世に示していました。若くして名声を得たユーゴーは、やがて有力者の支援を受けて政治にもかかわるようになり社会的な活動を続け、その後の改革に大きな影響を与えます。亡命中に社会や人間の本質を描いた代表作「レ・ミゼラブル」を発表します。この作品は世界的な名作となりました。四中図書館にもありますよ！

## 2月といえば…チョコ or 鬼 or 豆??

### チョコレート・アンダーグラウンド

アレックス・シアラー 著 933シ

選挙で勝った政党によって、チョコレートをはじめとする全ての甘いものが禁止される法律が制定されます。健康的な生活を強いる社会に2人の少年が信念を貫くために自分たちの未来を切り開いていくストーリー。たかがチョコレート、されどチョコレート。ちょっとした勇気をもてば『チョコレートは人生をとても幸せなものにしてくれるのだ』というハッピーエンド。チョコレート色の活字の本はなんだかおしゃれ。読後はあまーいチョコレートをお好きなだけどうぞ・・・！

### 鬼の橋 伊藤遊 著 913I

平安時代に実在した小野篁(たかむら)を主人公に描いた歴史ファンタジー。妹を亡くし失意の日々を送る篁は、妹が落ちた古井戸から冥界に迷い込みます。この世と地獄を往き来するうちに鬼となった飛天丸や田村麻呂との交流のなかで生きる力を取り戻し成長する姿はいつ読んでも心に響きます。小学校図書室にもある本ですが、読んでいなかった人はぜひ手にとってみてはいかがでしょうか。

### 謎のアジア納豆 高野秀行 著 383タ

豆は豆でも、節分の豆ではありません。納豆についてそのルーツを日本だけでなく、広くアジア各地に追う探求の旅が記されている本です。実は納豆は日本だけのものではないことが取材でわかります。筆者のあくなき好奇心、冒険心、行動力には感心するとともに探求心こそが全ての原動力の源になることが伝わってきます。夢中になれる何かを見つけることは大切なことですね。